

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第28号

2015.3 vol.28



自然教育園



シンポジスト



シンポジウム会場

CONTENTS ■ ごあいさつ

赤坂地区総合支所協働推進課長 佐藤 博史

芝浦港南地区総合支所協働推進課長 山本 睦美

■ 「明治学院オープンアカデミー」のご案内

■ 2014年度シンポジウム・活動報告会

～地域でやっていること・やりたいこと～

■ 地域CC年間活動報告

■ 運営委員会報告

力強いパートナーです。CCクラブ！

赤坂地区総合支所協働推進課長 佐藤博史

地域が抱える課題を解決するリーダーの集合体であるチャレンジコミュニティ・クラブの皆さんは、地域を良くしたいという情熱と志によって、区の事業や地域活動に積極的に参加・活躍されています。



職員一同、事業推進の追い風として大きな力をいただくとともに、大変感謝しております。

以前私は、平成24年、25年と「港区の財政」というテーマで講義をさせていただきました。皆さんの熱心で前向きな姿は大変頼もしく、講義をしながらも私自身が改めて学ぶことができた貴重な時間でした。

現在、一緒に学んだ皆さんと共に、地域の課題解決に向けた活動を行えることを非常にうれしく感じており、いきいきと街を走り回っております。

チャレンジコミュニティ大学修了生の積極的な活動の成果は、着実に地域に浸透しており、その存在感・発信力は高まっています。これからも、この輪が幾重にも広がり続け、笑顔や魅力があふれ、活力ある地域社会が実を結ぶものと感じております。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんの「はつらつさ」や「笑顔」はまわりに「勇気」と「力」を与えてくれます。今後とも一層の連携をよろしくお願いいたします。

未来都市・港区ベイエリアを

皆さんとともに！

芝浦港南地区総合支所協働推進課長 山本睦美

このたびは、2014年度シンポジウム・CCクラブ活動報告にお招きいただき、ありがとうございました。各地域クラブの皆様は、活動報告やご意見をお聞きし、地域社会の在り方について



皆様の熱い思いに、あらためて敬意を表します。

また、地区版基本計画書の策定にあたりましては、ご協力をいただきありがとうございました。

芝浦港南地区は、港区の中では若いまちであるとともに、近年の大規模集合住宅の建設により各世代における人口が増え続けている地区です。このような現状を踏まえ、「快適で温かみのある運河と海辺の未来都市・港区ベイエリア」という将来像をかかげ、地区の魅力や歴史・文化等を知り、それを地区の皆様へ発信し、さらに魅力アップさせるとともに、地域のコミュニティの推進に取り組んでいます。

新しい地域事業には、今まで地域CCクラブ・明虹会の皆様へ積極的に取り組んでいただきました「地域の魅力アップ・プロジェクト」から、さらに一歩進んだ「水辺のまち魅力アップ事業」や、自然環境への理解と保全への普及啓発を図る「みどりのあるまちづくり事業」があります。また、昨年12月にオープンしました、みなとパーク芝浦の共用部分等を活用した「みなとパーク芝浦ふれあい空間づくり」にも取り組んでまいります。

CCクラブの皆様をはじめ、地区の町会・自治会や大学・事業者など、様々な方々と共に、快適な未来都市をつくりあげて行きたいと思っております。

未来に向かって、一緒に出航しましょう！！

「明治学院オープンアカデミー」のご案内 ～“知の刺激”を提供しています～

本学は社会に開かれた大学として、本学がもっている知の財産を地域の皆様に還元していく《生涯学習》を大事にしたいと考えています。そのひとつの事例として港区民を対象とした「明治学院大学 港区民大学」を港区（Kiss ポート財団）と共催で開催しています。

実は、その他に地域の方も参加できる学部付属の研究所、大学直属の研究所主催の講演会等が数多く開催されています。

皆様がこれらの講演会等に積極的に参加いただくための「明治学院オープンアカデミー」を紹介いたします。

明治学院大学が提供する“知の刺激”の機会に是非、ご参加ください。

Q1：「明治学院オープンアカデミー」とは何ですか？

A1：学内の各部門で開催する、「公開セミナー・公開講座等」について、大学全体として、地域の方々等に、メール等でお知らせするものです。2014年度スタートの新企画です。

Q2：講座には誰でも参加できますか？

A2：はい。事前申込み手続きや定員、受講料が必要な講座もありますが、なるべく多くの方に参加して戴きたいと思えます。講座に関する問合せなどは直接、主催研究所等にお願ひします。

Q3：学内の研究所はどのくらいあるのですか？

A3：白金校舎に7研究所（国際平和研究所、キリスト教研究所、言語文化研究所、産業経済研究所、社会学部付属研究所、法律科学研究所、心理学部付属研究所）、横浜校舎に2研究所（国際学部付属研究所、教養教育センター付属研究所）、全学で9つの研究所があります。

Q4：情報はどのように提供されますか？

A4：開催情報は毎月1回程度を目途に発行している「明治学院オープンアカデミー」というタイトルのメールでお知らせします。

Q5：「明治学院オープンアカデミー」を送信してもらうための手続きを教えてください。

A5：希望の方は、件名を「オープンアカデミー登録」としていただき、①CC 大学入学期②お名前③よみがな④メールアドレスを記して次のアドレスに送信してください。

openacd@mguad.meijigakuin.ac.jp

登録完了後、明治学院オープンアカデミー事務局（明治学院大学総合企画室地域連携推進担当）より「明治学院オープンアカデミー」のメールが送信されます。

Q6：メールの内容について教えてください。

A6：2015年3月初旬に送信したメールを一例としてご紹介します。

■【PRIME 後援公開セミナー】「世界の核兵器の現状と市民の調査力」

日時：2015年3月7日(土)

16：00～18：00(15：30 開場)

場所：白金校舎 本館3階 1302 教室

募集：事前申込不要、

資料代：500円（明学生無料）

主催：NPO 法人ピースデポ

後援：明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

内容：（関連 URL）

<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/jp=2489>

■明治学院コンサート・シリーズ 第70回

《チェロ八重奏》

日時：2015年3月29日(日)

15:00 開演 (14:30 開場)

場所：白金校舎パレットゾーン

2階アートホール

募集：入場無料（予約不要）

主催：国際学部 半澤朝彦

演奏：（関連 URL）

<http://www.meijigakuin.ac.jp/event/archive/2014/2015-2-12.html>

「2014 年度シンポジウム・活動報告会」

～地域でやっていること・やりたいこと～

「2014 年度シンポジウム・活動報告会」～地域でやっていること・やりたいこと～が2月28日（土）に明治学院大学（3201 教室）で開催されました。今年度は港区との共同開催となり、当初の参加予定人数が増加したため会場を変更しました。参加者はCCクラブ会員と会員以外の区民を合わせて212名になりました。

第1部：「シンポジウム・活動報告会」はCCクラブ・村岡洋二世話人代表、港区・武井雅昭区長、明治学院大学・鶴殿博喜学長が挨拶をし、司会の企画部会岩村道子さんが来賓の方々を紹介した後、シンポジウムと活動報告が行われ、予定時間をオーバーしての充実した会でした。第2部ではCCクラブ交流会として例年のようにパレットゾーンで140名を超える方が参加し行われました。CC大学8期生35名も参加し、地域と期を超えた楽しい雰囲気交流会でした。

第1部 シンポジウムと活動報告会

CCクラブ村岡世話人代表からは今回のシンポジウムが港区地域振興課との共催に至った経緯の説明後、共催者の港区と行事全般にわたり全面支援していただいた明治学院大学に謝意が示されました。

次に同じく共催者である港区からは例年の通り武井区長の挨拶がありました。区民協働の意義を強調されるとともに2020年オリンピックに向け大きく変化する港区を安全・安心に暮し自己実現ができる区にしたいと決意表明がありました。

続いて明治学院大学の鶴殿学長の挨拶があり、多くの参加者を迎えられたことに謝意が示され、今後とも地域に開かれた大学を目指すとの意向が表明されました。今年度のインドネシア特別講義と同様、来年度もトルコ、タイ、サウジアラビアを検討しているのでは非ご参加をとのお誘いもありました。

来賓として区議会議員13名の方が参加し、司会者から紹介されました。



左から挨拶をする村岡代表、武井区長、鶴殿学長

シンポジウム

コーディネーター 明治学院大学 河合 克義 教授

シンポジウムはコーディネーターの明治学院大学河合克義教授が基調報告者である安藤雄太委員長を紹介し開始されました。

基調報告

「その一歩、人がつながる楽しいまちづくり」
港区協働推進委員会 安藤 雄太 委員長

現在、世の中が複雑になってきており、私たちが小さかった頃と比べますと、今は生活が大きく異なっています。人のつながりが非常に希薄になったということは、皆さんも感じているのではないのでしょうか。地域の中には、さまざまな生活課題を抱えている人々がたくさんいます。多くの課題があるにも関わらず、「地域で支えあう」ということがとても難しくなっています。今、地域の中にある多様な課題を拾い上げて、どのように対処していくのかということが求められつつあると思います。その意味で、自分のことは自分でやるが大原則ですが、少し手助けが必要な人はたくさんいますし、少しだけまちの環境を変えることで、とても住みやすくなる人がたくさんあります。



安藤雄太委員

地域や人のために役に立ちたいと思っている人はたくさんおり、60%の人達が人の役に立ちたいと思って

いますし、地域の役に立ちたいと思っている人は45%位います。阪神・淡路大震災や東日本大震災では、大勢のボランティアが駆け付け、現地には行けなくても、いろいろな支援を行った人もたくさんいました。

NPO(特定非営利活動法人)を規定している「特定非営利活動促進法」は、もともとは「市民活動促進法」で、いろいろな形の市民活動をバックアップする法律でした。また、阪神・淡路大震災で動いてくれた多くのボランティアを、どうバックアップできるのかというのがきっかけで作られた法律です。ただし、NPOはそれだけではありません。NPO法人による活動も、皆さんが集まって行う任意の活動も、ボランティアといわれている活動もNPOです。他にも、社会福祉法人や学校法人など、非営利の活動がありますが、こうした法人の活動も広い意味ではNPOといえます。

昨年、港区で、そうした非営利の人たちと一緒に活動しながら地域を良くしていこうとしてまとめたのが、「区民協働ガイドライン」です。その中の図において、「区が責任を持って独自に行う領域」と「各活動主体が独自に活動する領域」とありますが、実際には各活動主体が自主的に行う活動がたくさんあり、そちらの方がうまくいきます。なぜなら、自分たちのやりたいように活動ができるからです。

一方で、区が責任を持って行うことだけでは、全ての地域課題を解決するのは不可能です。東日本大震災をみてもそうですが、行政だけで復興はできません。地域の中でどう復興していくのか、その中で地域のコミュニティをどう作っていくのか、地域の人たちと行政と一緒に復興に向けてやっていこうとしているのが「協働」です。

「協働」は、行政やNPO、商店街など、それぞれ異なる組織がそれぞれの特色を出しながら、一つの目的に向かって活動を進め、地域を良くしていこうとするものです。行政は法律や制度に基づいて行っているため、力強く、長期的に活動を行えます。市民の活動は行政とは異なり、必ずしも公平でないところがありますが、個人に合わせて活動ができ、すぐに動けるといふ民間活動の強みがあります。そのよいところをどうやって活かしていくかが「協働」になります。

まちの中で、多くの人たちが課題を抱え、孤立化していくといった問題がある中で、区で何かしらの対策

が取られたり、市民が何かしらの活動を行おうとしたりします。その際、協働のきっかけを作るのは市民であり、それを基盤的に揃えていけるのは行政です。そこで一緒に手を組もうということになります。「協働ガイドライン」でも、そのようなことから「協働の原則」として7点書いています。こうしたことを踏まえ、皆さんが地域の中で活動し、さらに活動を展開させていっていただければと願っています。



シンポジウム会場

パネルディスカッション

基調報告終了の休憩後、河合教授より「今回のシンポジウムが港区とCCクラブの共同開催であることと報告者が多岐に渡っており、実りある会にしたい」旨の発言があり再開されました。

会社の活動紹介

太陽生命保険株式会社

秋山 清茂

当社は、「全国一斉クリーンキャンペーン」として本社および全国の支社において年1回社屋周辺の清掃活動を実施しています(26年度参加者総数8,127名)。また、本社では、年2回地域の方々と実施する「芝地区クリーンキャンペーン」や夏場の「打ち水大作戦」に参加させていただいています。これからも地域の一員として美しい街づくりに協力してまいります。

団体の活動紹介

ジービーパートナーズ(特定非営利活動法人)

上野 佳志子 大橋 力

ジービーパートナーズは、シニア世代の経験や知識を生かし人材が不足しているNPOの経理や事務、営

業等をサポートすることで、シニア世代の新しい社会参加のかたちを創造しています。会員数は約 80 名（2015 年 1 月現在）で、活動頻度はプロジェクトごとに活動しており、平均週 1 回～月 1 回程度です。NPO は社会課題解決の重要な担い手ですが、現場対応に追われて事務作業等に手が回っていません。一方でシニア世代にはスキルと経験を役立てたい人がたくさんいます。この人たちが若い世代の NPO を支えることによって NPO が本来の活動を充実させ、社会的課題の解決が進むことを期待しています。



シンポジウム会場

高輪一丁目町会松が丘部会活動

高輪地区 CC クラブ

2 期 安藤 洋一

・高松桜まつり

高松中学校周辺に、桜の木が連続している通りがあり、美しい桜の景観を楽しむことができる。4 年前、区議会議員の方との立ち話から、通りを交通止めにし、花見、お店の出店、イベントを開催する「高松桜まつり」を企画した。町会で合意を得た後、近隣の町会にも声をかけ 5 町会合同のお祭りになった。さらに、商店会、大学、高校、公共団体、CC クラブなど地域 16 団体の協力を得られることになった。一つのお祭りが地域の方々、諸団体を繋ぐ大きな力になることを実感した。毎年、参加する団体が増え、地域の輪が広がっている。

・コミュニティカフェ高輪

高輪区民センター 2 階で、高輪地区 CC クラブ主催で会員相互の親睦と地域の方の交流を目的に第 2、第 4 金曜日「コミュニティカフェ高輪」を開催している。次第に参加する方が増え地域の居場所として定着しつつある。平成 28 年度から新設の区民協働スペースを使い、充実・拡大する予定である。

7 年目の「みなトーク」会活動

高輪地区 CC クラブ

2 期 久津 弘子

2009 年にスタートした「みなトーク」会。現在は 1 期から 8 期まで 57 名が参加。毎月の定期イベントも回を重ね、この 3 月で 72 回目となります。

会員同士の交流を基本に、自助・共助をめざし、地域のお役に立ちたいと、様々な活動をしています。昨年は「東北応援一泊旅行」に行きました。地域の祭で、自分たちの手作りケーキを売り、その収益を被災地に寄付するなど、出来ることから始めています。国際交流の会を開いたり、サービス付高齢者住宅を見学したり……活動の範囲は多岐に渡っていますが、みな、それぞれの得意領域で活動しています。なかでも、歌のボランティアグループ「うたつむぎ」としての活動が活発です。毎回 5～12 名で、各地域の高齢者施設を訪問し、利用者と一緒に元気に歌っています。延べ訪問回数も 159 回となります。

自分たちで考え、協力しあいながら様々なことにチャレンジして、その輪はどんどん広がっています。

ペーパークラフト講座活動

芝 CC クラブ

5 期 佐々木 博子

今回は芝みたまち俱樂部で行った「紙とあそぼうペーパークラフト」と題したカード作りについて報告します。暑い夏、室内でお金を使わないで何か出来ないか、ということで始めました。新聞の折込広告や雑誌の中には色、紙質のよいものがありこれを使いました。7 月から 9 月までの毎月 1 回、毎回平均 16 人程度の受講者で CC クラブから 6～7 人が参加、指導しました。

その後いきいきプラザ 3 か所から声がかかりお祭りに参加。ラクっちゃでの健康長寿 in みなにも参加。体験者総数は 250 名近くになりました。作り方は簡単ですが図柄や組み合わせにより自分だけの作品ができます。子供から高齢者まで楽しめます。はさみを使うことや、図柄を考えるのも認知症予防に良いのではないのでしょうか。

介護相談員活動

明虹会（港南・芝浦・台場地域 CC クラブ）

6 期 石高 則子

介護相談員をやって 5 年を迎えます。この制度は平

成 12 年に市町村、特別区で発足しました。活動内容は利用者の立場に立ちつつ、苦情や不満の解消を図るために利用者とサービス事業者間の橋渡しを行っています。今、施設に何うと二十代の職員が一生懸命、高齢者の身の回りの世話をしています。私は利用者さんとの会話を含め、施設内に汚れや危険な個所がないかなど、その時気づいた事、目にした事を書いて伝えます。

介護相談員は男女合わせて 22 名。そのうち CC 修了生は 7 名。特養、デイサービスの港区の指定施設 15 か所を 4 つのグループで月に 5~6 回訪問活動しています。またその都度社協からの勉強会もあり相談員は認知症のサポーターでもあります。

利用者さんと話をしているうちに表情のない方や気難しい人が笑顔で手を握って来たりしてくださる貴重な学びの時と場を大切に、少しでもお手伝いできたらと思っています。

子ども会や東麻布街づくり活動

3Aクラブ（赤坂・青山・麻布地域 CC クラブ）

7 期 宮崎 貴美子

東麻布街づくり協議会は、飯倉小学校の廃校に伴い、10 年前に東麻布 6 町会・2 商店会・住民との協力関係の中、まちの活性化を旨とし発足しました。

その活動資金を得るために古紙回収事業が同時に実施されました。ダンボール、古紙、雑誌等の収集を毎金曜日に早朝~9 時半ころまで（第 3 金曜日休み）参加者の都合のなかで実施しています。平均年齢 75 歳以上でスタッフ約 20 名です。ここでの報奨金をまちの発展交流に生かすため様々な行事に取り組んでいます。8 月末の夏まつりには子供を中心に 500 名余で賑い、山形県舟形町との交流と菜園利用で収穫したさつまいもによる会食会や、トランペット、ベルハム教室による福祉施設等の演奏は年間行事です。これらの活動を通じてコミュニケーションの場に大いに役立っています。私自身もこの場で沢山の事を学び有り難く思っています。しかし、ボランティアスタッフの高齢化に伴って若い人達の力を必要としています。

又、地域の住民の要望で平成 25 年 4 月に東麻布協働スペースが立ち上がりましたが、利用がほとんどされてない状況が見られます。まちの人が利用しやすい方

向になるように前向きな検討を要望します。



司会の河合教授とパネラーの皆さん

質疑・応答

質問（高輪地区パネラー）：港区には区民協働スペースが多くあるが、余り使われていないものが多い。お互いにもっと上手に使う方法を考えたかどうか。区民に任せることで良いのではないかと。

回答（地域振興課長）：協働スペースは区と区民の協働の場、また、区民の皆様同士が使う協働の場でありませ。現在、区民が知らない、分からないというケースも見られる。区民協働スペースが上手く使われていないところも多いと思うが、皆さんの意見を聞きながらお互いが上手く使える方法を考えて行きたい。

質問（5 期生）：太陽生命保険さんとジービーパートナーズさんに質問します。太陽生命保険さんの活動を見るケースが少ない。もっと地域住民を巻き込んだ活動にした方が良いのではないかと。会社のなかだけの CSR 活動なのか、地域を巻き込んだ活動にするつもりなのかお聞きしたい。また、ジービーパートナーズさんが支援する対象は個人なのか小さな団体なのかどちらですか。

回答（太陽生命保険）：昨夏のクリーン活動は 300 人位集まったが、土曜日の朝なので目立たなかった。皆さんの個人の活動は素晴らしいので、クリーン活動だけでなく地域の方との協働も考えたい。現在（太陽生命保険と関係の深い）石巻市と共同して会社前の広場で物産展を区、地域と協働で行いたいと考えています。

（ジービーパートナーズ）支援の相手は団体で、広い意味での NPO（営利を目的としない団体）です。皆さんも長いキャリアがあって活動していると思うが、私どもも自分たちが出来ることを支援するという考え方で行っています。

質問 (7 期生) : 企業は地域貢献で何が出来るか分からず、一方、地域は企業に何をしてもらえるか分からないことがある。企業と地域がうまくマッチングできる方法はないのでしょうか。

回答 (太陽生命保険) : 現在、私も委員をしている協働推進委員会で議論を進めています。企業は地域がどんな活動をしているか分からないし、何をしたいか分からない。企業と地域の双方がお互いのことが見える中間支援組織みたいなものができれば良いと思っている。

意見 (8 期生意見) : 東麻布街づくり協議会で事務局をしています。東麻布地域と山形県舟形町は昭和 47 年以降お付き合いがあつて、東京で震災があつた時のための震災協定があります。官と民との協定です。それも含めて舟形町とはいろいろな協力体制を組んでいます。今の活動は限られたものですが、子供への企画も含めさらに活動を広めていきます。

全体講評

港区協働推進委員会 安藤 雄太 委員長
明治学院大学 河合 克義 教授

安藤雄太委員長 : いろいろな方がいろいろな活動を進めていることを改めて感じました。港区も皆様の活動のなかでも「入り易いきっかけ作り」をしていることの大切さを感じたし、そこで「知り合う」ことが大事であり、地域の雰囲気作りになっていると思った。また、活動のなかで集まった人が出すアイデアというものが大切だし、それがコミュニティを作っていくと思った。いろいろな人が様々なアイデア (経験値みたいなもの) を出し合うことが大切だと思う。

震災が起こった時、地域で繋がりがなかったら大変困る。地域でそれぞれが知り合っていることで助け出された人が沢山いる。繋がるということは難しいことだがそれを多くの人に広げることが大切です。企業も団体も区民も同じです。そのために、コーディネーションが出来る人も必要であるし、企業の特徴を知ること支援を受ける側として必要だと思う。そして、情報交換が出来る場所として協働スペースが利用できたら良いと思う。いろいろなことで繋がること、それがコミュニティだと思う。

阪神・淡路大震災から 20 年経ち、皆さん、復興して

いると思っているかも知れない。現在、建物は綺麗になったが、20 年前に傷を負った方が復興住宅のなかで孤独死をしている現実がある。その要因は「人の繋がりを切らしてしまった」ことが大きい。その意味でも、今、人の繋がりは大切であるし、皆様の活動は大切であると感じました。

パネラーからの意見

3. 11 の東日本大震災の際に、すぐにメンバーに連絡を取った。何が出来るか分からなかったが、気持ちの上で繋がっているとは、このような事ではないかと思つたし、ネットワークは必要だと思つた。

河合 克義 教授

CCクラブは 2015 年度 9 期生、2016 年度には 10 期生を迎えます。10 期になると修了生だけで 600 人になるし、周りを含めるとその 2 倍、3 倍になるわけで、素晴らしいネットワークです。ネットワークが出来ただけでなく、地域の状況を学ぶことも大切です。本日は大変良い報告とその後のディスカッションであつたと思います。有難うございました。

活動報告

2014 年度 CCクラブの 1 年を振り返る

クラブ活動報告

会報部会長 5 期 大竹 裕

今回は港区との共催ということで港区関係者や港区議に加え一般市民を含め約 50 名のクラブ外の方が参加しているため CCクラブの概要について PR します。

CC大学修了生 1~8 期約 460 名の OB・OG の同窓会で各期各グループと 4 地域選出の 25 名の運営委員を中心に活動しています。年 2~3 回の講演会や研修、会報 (季刊) 発行、クラブ HP の運用、活動事例紹介パンフレット発行が主な事業です。次に 2014 年度の各行事について簡単に振り返ります。

- (1) 7 月 26 日 ホームカミングデイ (参加数 139 名)
鶴殿学長講演「ドイツをめぐる雑感」
CCクラブ会員による 4 地域活動事例紹介
- (2) 9 月 15~20 日 フランス研修旅行 (会員 4 名参加)
日仏の成年後見制度 (パリ第 2 大学での国際会議)
福祉団体カトリック救済会訪問

- (3)10月24日 国内研修 (参加数 60名)
 「新東京丸に乗って東京湾の役割を学ぼう」
 東京都港湾局視察船での見学
 東京みなと館見学・浜離宮散策
- (4)2月28日 CCクラブ・港区地域振興課共催
 「区民協働シンポジウム」(参加数 212名)
 「地域でやっていること・やりたいこと」
 CCクラブ活動報告・交流会

クローズアップCCについて

～登場者のお話(取材)からみえたもの～

地域連携部会長 6期 川上利春

CC会員、特にこれから地域デビューをしようとする方からの要望に背中を押されてはじめた地域活動のミニコミ紹介情報。NHKのネーミングを一部借りてスタートしたが、とにかく、情報を受取る人がわかりやすいようにと、①見る ②簡単 ③笑顔をコンセプトに、イラスト、写真を主体に「A4・1枚」をCCクラブのホームページで公開した。

現在まで28号と続いているが、一番たくさん載せたのは地域CCクラブ主催の行事や町会・いきいきプラザなどでのイベント参加で、いわゆる「地域貢献型」が15件と最も多かった。

印象に残ったことは、意外にも記事に登場した人たちに次の3つの共通点があり、活動が継続している要因?とも考えられる。①できる範囲(無理をせず、時間や好みなど自分の都合に合わせる)②楽しむ(自分自身が楽しまないと相手に伝わらない)③笑みを求める(相手の喜びが自分の喜びを生む=生きがい)です。

詳細(当日の発表資料)をホームページでも掲載しているので、ご覧ください。来年度も、引き続きこのスタイルで地域の「スマイル」を求め、現場へお邪魔しようと考えています。

港区のお知らせ

高輪地区総合支所協働推進課 野澤 靖弘課長

「広報みなと」に5地区の区民参画組織のメンバー募集が掲載されています。皆様のなかで、参加希望がありましたら5つの協働推進課へ積極的に申し込んでください。(会報部会注:締め切りは3月31日です)

その後各地区総合支所協働推進課長から挨拶と催事の案内がありました。

芝地区総合支所協働推進課 荒川 正弘課長

麻布地区総合支所協働推進課 山本 隆司課長
 赤坂地区総合支所協働推進課 松井 義人係長
 芝浦港南地区総合支所協働推進課 山本 睦美課長

閉会のあいさつ

港区地域振興課

遠井 基樹 課長

会場を変更する程多くの方にお集まりいただき有難うございます。関係者の皆様に感謝いたします。今回は港区とCCクラブの共同開催になり、大変有意義であったと思っています。

今日、情報の共有の大切さを改めて認識しました。本日提案の協働スペースの使い方を含め多くのことについて推進していきたい。協働という言葉のもとに港区の良さをもっと高め、深めていきたいと思えます。

第2部 CCクラブ交流会

第1部の開催時間が予定より延長したため、交流会は17時15分に企画部会丸山保夫さんの司会で開かれました。CCクラブ会員、港区、明治学院大学関係者約140名を超える方が集まり、盛大に、かつ和やかな雰囲気で行われました。はじめにチャレンジ・

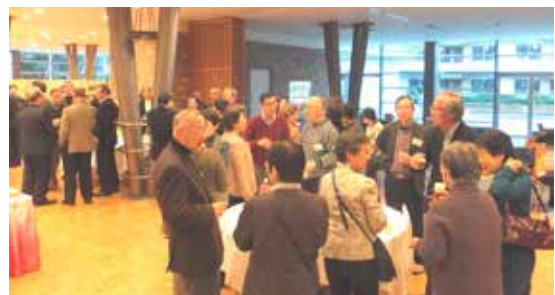


8期生紹介

コミュニティ大学8期生35名が

壇上に集まり、グループごとに自己紹介をしました。続いて、篠原世話人副代表の「CCクラブの存在価値が高まることと皆様のご健勝を祈念して」の発声で乾杯しました。最初は各期(各グループ)、地区の集まりから、グループを超えた楽しい雰囲気でした。

最後に小林桂樹企画部会長の挨拶で本日の行事は無事終了となりました。



歓談風景

地域CC年間活動報告

芝CCクラブ

芝CCクラブの今年度の活動は下記の通りです。

[定例活動]

毎週月曜日 アドプト活動（春と秋に、花の入れ替え）
毎月1回 芝みたまち倶楽部開催（三田いきいきプラザとの共催）
港地域パーキンソン病友の会支援
芝CCクラブ定例会

[今年度特別行事]

6月 芝ふれ愛まつり出展
9月 三田いきいきプラザまつり出展
10月 ヒューマンプラザまつりでパーキンソン病友の会支援
12月 神明フェスタ出展
2月 港区介護予防フェスタ出展



芝コミュニティハウスでのわいわい会議
(3期 新井 隆治)

明虹会(港南・芝浦・台場地域CCクラブ)

芝浦・港南・台場地域のCCクラブです。レインボーブリッジがあり、会の名前の由来となっています。5月新緑のころ新東京丸に乗って東京港の見学研修ツアーを行いました。7期生歓迎会も兼ね30名が参加、品川埠頭、羽田空港、中央防波堤、ゲートブリッジやお台場など変貌を遂げている東京ベイの様子をまじかにみることができ皆感心しきりでした。ランチはカレービュッフェで各人が近況報告し楽しい1日となりました。10月には多くの会員が第8回ベアアップ・ウォーキングで案内役などを務めました。みなとパーク芝

浦からレインボーブリッジを渡りお台場までのコースを一般の方、親子連れの方など70名近くが参加し東京湾から見るスカイツリー、東京タワーや富士山などの眺望をこころゆくまで堪能しました。秋の例会では「3Rを実践しよう」を掲げる港資源化センターと港清掃工場を18名が見学しました。3Rとは(Reduce, Reuse & Recycle)です。歴史散歩やウォーキングなどのイベントも多いですが、時にはこういった施設を自分の目でみて改めてごみの出し方などのちょっとした行動につなげるという勉強会も大切ですね!



秋の例会

新年会は小雪のなか15名が下町の住吉にある「東京大空襲・戦災資料センター」を訪れました。ビデオによる歴史証言の番組を見たあと体験談を聞きみな涙が止まらない様子でした。センターには10万人が亡くなった歴史を証言する数々の写真、絵画や遺品が展示されており見学者の心を揺さぶりました。このような歴史を伝えるセンターが民間施設で公共でないことや、犠牲者がほとんど一般市民で報われていない事など、考えねばならない事が多々遺されていました。明虹会では今後も親睦会、健康ウォーキングや各種研修会を定期的実施していく予定です。皆様の参加をお待ちしております。

(6期 斉藤 正精)

高輪地区CCクラブ

高輪地区CCクラブは発足後2年を経過し、主要活動であるカフェ事業は順調に推移しています。当初「ボ

ランティア・カフェ高輪」として出発した事業は、昨年4月より「コミュニティカフェ高輪」として活動しています。それまで高輪総合支所が主催の「高輪コミュニティ広場」のカフェ事業も請け負う形で、CC、支所、区民センターの三者の協働の形となりました。名前は変わりましたが、従来通り高輪地区CC会員がほぼ全面的に運営を行っており、利用者数も増えています。毎月第2、第4金曜日の13時～16時の短い時間ですが、利用者の数は毎回30名前後で、最近では近隣住民の方々の参加も増え良い交流の場となっています。



コミュニティカフェ高輪

昨年8月には、6月の総会に続いて「納涼交流会」を実施、半数以上のメンバーが参加し、CC最長老の石松勝さん（94歳、7期）の話や雨宮武さん（3期）の手作を楽しんだ後、久津弘子さん（2期）の「うたつむぎ」による合唱で締めました。「コミュニティカフェ高輪」は通常、区民センターの2階のオープンスペースで行っていますが、「高松桜まつり」の際には出店し、フリーマーケットと合わせ活動し、また恒例の「たかなわフェスティバル」にも参加しています。直接カフェとは関係ありませんが、高輪いきいきプラザ主催の「みんなで盆踊り」には高輪地区CCクラブとして協力しました。「コミュニティカフェ高輪」は特に行事を設けず、自由にコーヒー、お茶を飲みながら交流する場としていましたが、たまにはカフェと合わせて、ミニ講演会もやってみようという事になり、この1月には石松さんと知人の及川さんの話を聞きました。

現在、高輪地区CCクラブ会員は116名ですが、会費もなく自由な会ですので、未登録の方は是非ご連絡下さい。 連絡先：飯塚洗子(1期)。

(1期 米永 栄一郎)

3Aクラブ（赤坂・青山・麻布地域CC）

赤坂・青山・麻布地域CC・3A(スリーエイ)クラブは年に4回、会場は赤坂総合支所1階の会議室と麻布総合支所の協働スペースを交互に、集いを開催しています。近隣の地域に住む会員同志の情報交換の場として、各人の活動を紹介したり、地域のことについて話し合ったりしてきました。顔を合わせる回を重ねるごとに親しさが増しているのではないのでしょうか。

2014年度は5月21日、赤坂総合支所で第3回集いを開催し、26名が参加しました。初参加の7期生は5名でした。7月26日CCクラブ・ホームカミングデイの終了後に中国料理店で7期生歓迎の夕食会を持ちました。第4回集いは8月20日、麻布総合支所で16名が参加。次回からのランチ会の提案があり、第5回は11月19日、赤坂総合支所での集いに23名、初めての試みのランチ会に21名が参加。集いでは改めて各人が近況を語りました。今後、どなたかに経験談などを話してもらおう時間を持つてはどうかという話になり、お一人にお願いしました。



第6回集い麻布総合支所協働スペース

第6回集いは2月19日、麻布総合支所別棟の新設協働スペースで20名が参加。7期の池田さんに児童養護施設のお話を伺いました。次回もお一人にお願いしています。その後、16名が国際交流会館でランチと会話を楽しみました。2月28日時点で、8期生の3Aクラブ登録会員は12名です。第7回は来る5月20日(水)午前10時～赤坂総合支所にて8期生歓迎の集いで、ランチ会も開催する予定です。詳細の案内チラシは、このCC通信28号に同封されています。皆様のご参加を心待ちにしています。 (6期 篠原 咲子)

■運営委員会報告

世界を震撼させる物騒なニュースに翻弄されながら、本年も早や3か月経ちました。CCクラブ会員の皆様におかれましては、お忙しくそれぞれの活動に勤んでおられることと拝察いたしております。

3月に修了のCC大学8期生の方々をお迎えして、CCクラブの会員数も、450人を超えました。益々意欲的な会員が増えて来たことは、先日開催された「シンポジウム・活動報告会と交流会」の様子で、十分ご理解いただけたと思います。そうした会員の方々の活動を、直接・間接に支援して行くのが、今のCCクラブに求められる大きな役割と考えております。そのために、この会報のタイムリーな編集、HPの内容の一層の充実、更にはミニコミ情報紙「クローズアップCC」の継続的な発行等に力を注いでいるところです。皆さまからも、沢山の情報提供をよろしく願い申し上げます。

2015年度の運営委員会も、新たに8期生の委員3名を加えて28名（各期各グループから24名及び地域CCクラブから4名）の顔触れも出揃い、新世話人代表はじめ幹部の選出も済ませ、クラブの一層の発展のための議論を既に始めております。

これに伴って、私事ですが、この度世話人代表を退任いたしました。暗中模索の2年間でしたが、皆さま方の温かいご理解とご支援のお蔭で、何とか大過なく任務を終えることが出来ました。改めて御礼申し上げます。その間、上述の役割を果たすための体制整備に努めて参りましたが、これからはCCクラブとしての大きな柱を立てる時期に差し掛かっていると思いますので、新運営委員会には大いに期待しております。また、会員の皆様にも更なる応援をお願いする次第です。

(2014年度世話人代表 村岡 洋二)

編集後記

25号からスタートした2014年度の発行も今号で最終となりました。CCクラブの行事と日常のクラブ会員の活動を伝えてまいりました。CCクラブとしても年度の総括としての「2014年度シンポジウム・活動報告会と交流会」であったと思います。今号は当日の様子を誌面の許す限り皆様にお伝えしています。是非、お手に取ってご覧ください。

私にとってCCクラブ1年目に会報部会の一員としてCC通信の発行に参加させていただき、実りある一年間でした。今後も機会があれば微力ながら参加させていただきます。

最後に、皆様のご協力に感謝いたします。有難うございました。

(7期 太田 則義)



チャレンジコミュニティ通信 vol.28 2015年3月25日発行
 発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ
 事務局 明治学院大学 総合企画室(地域連携推進担当)
 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
 Tel. 03-5421-5247 Fax. 03-5421-5387
 Email ccclub@mguad.meijigakuin.ac.jp
 http://www.minato-ccc.jp

会報部会
 部会長 大竹 裕(5期)
 部員 南 明治(3期)
 部員 坂上 宗男(3期)
 部員 田中 眞弓(3期)
 部員 太田 則義(7期)
 協力部員 入江 誠(4期)